

いちご「とちあいか」の高収益安定生産に向けた育苗管理技術の確立

要約

とちあいかの育苗中の施肥量は、慣行の窒素成分 120mg/株に対して、60mg では頂花房の開花がやや早まり、160mg ではやや遅くなるが、年内収量に与える影響は少ない。また、葉色は、育苗中の施肥量の目安となり、葉色が淡くならないよう管理すると良い。

○ 展示のねらい

「とちあいか」年内収量確保のためには、頂果房及び一次腋果房の開花・収穫時期が重要となる。育苗中の施肥量の違いが苗質や花芽形成、定植後の初期生育に及ぼす影響を調査した。慣行の窒素成分 120mg に対し、施肥を増減させた 2 区を設けた。

表 1 育苗期間中の施肥量

処理区	窒素成分	スーパータレット50RT(個/株)			窒素成分合計(mg/株)
		7/13	7/29	8/13	
供試区①	窒素成分160mg	1.5	1.0	1.5	168
供試区②	窒素成分60mg	0.5	0.5	0.5	63
対照区	慣行(窒素成分120mg)	1.0	1.0	1.0	126

スーパータレット50RT：窒素成分42mg/個

○ 主な成果

育苗中の葉色は、施肥3回目前日の8月12日時点で、対照区に比べ供試区①がやや濃く、供試区②がやや淡い状況だった。頂花房の開花始期は、対照区に比べ供試区①は2日遅く、供試区②は3日早かったが、頂果房の収穫時期には大きな差がなかった。供試区②では頂～1次腋花房間葉数がやや多くなったが、1次腋果房の開花・収穫時期には大きな差はなかった。



図 1 育苗状況 (8月12日)

表 2 苗質調査結果と定植後の生育状況

処理区	苗質(調査:9/1、定植:9/10)			頂果房 開花日	着花数		花房間葉数		総花房数 (1/17時点)
	草丈(cm)	クラウン径 (mm)	花芽分化指数		頂果房	1次腋	頂～1次	1次～2次	
供試区①	21.3	11.3	3.3	10/6	7.4	13.0	2.6	3.6	5.2
供試区②	17.5	8.8	3.3	10/1	6.2	13.0	4.2	3.4	6.0
対照区	18.5	11.5	3.3	10/4	7.3	12.0	3.4	3.8	5.2

○ 今後の方向性

育苗期間中の施肥量の大小は、年内の収穫に大きな影響は及ぼさないが、慣行より施肥が少なすぎる場合、苗の充実不足や頂～1次腋花房間葉数の増加が懸念される。育苗中の施肥量は慣行(窒素成分 120mg/株)を目安とし、葉色を見ながら調整していく。

実施機関： 上都賀農業振興事務所経営普及部

実施場所： 鹿沼市

問合せ先： 栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315